

呉市手をつなぐ育成会 ～2月号～

育成会だより



障がい児者を守り、その福祉の向上を図ることを目的とします。



2024年(令和6年)2月1日発行

呉市手をつなぐ育成会

会長 中川 潤二

〒737-0051

呉市中央5丁目12-21

呉市福祉会館3階

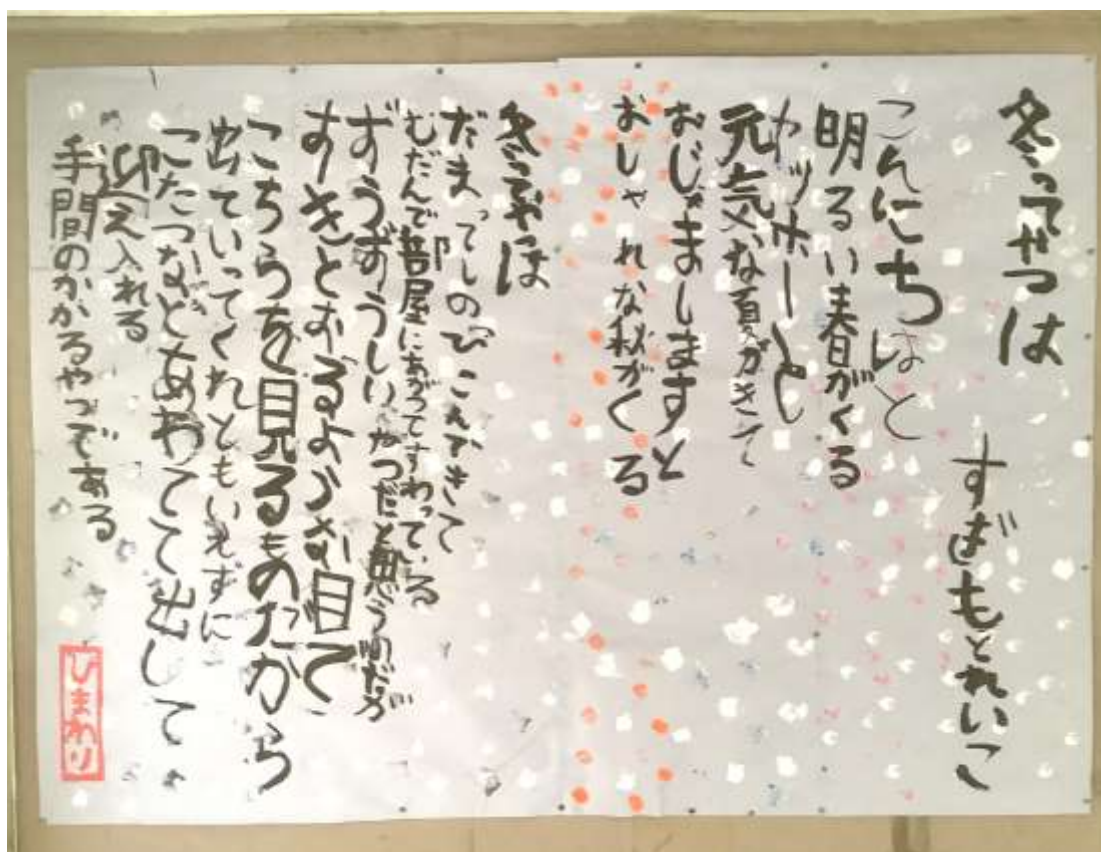
Tel(0823)24-2260

Fax(0823)24-2568

E-mail kure-teotunagu

@herb.ocn.ne.jp

<http://kure-teotunagu.org/>



呉市立吉浦小学校ひまわり学級
作品名「冬ってやつは」
1,2,3,4組

もくじ

- 表紙 呉市立吉浦小学校
- P.2 「聞くことが」 会長 中川潤二
「令和6年 能登半島地震」にかかる義援金のお願い
- P.3 手をつなぎ生きる vol. 24 「卒業」 十河 千佳
- P.4.5 連載 4 手をつなぎ生きる シナモンロール
「次男との10年間をここに綴る 第4章」
- P.6 ぼくの学級！わたしの学級！呉市立豊浜中学校
- P.7 クリスマス会に参加して(清水ヶ丘学園)
本人活動報告
- P.8 第47回呉市立小・中学校特別支援学級合同作品展
お礼 お知らせ 編集後記

2月の予定

- 2月9日(金) 10:00～12:00
サポートファイル学習会(呉市福祉会館3階)
- 2月18日(日)
本人部会会議 10:30(呉つばき会館)
うたう会 13:30(呉つばき会館)
- 2月24日(土)
いくせい太鼓 14:00(呉つばき会館)
- 2月25日(日)
本人による本人のための相談会&交流会

★次回発行は3月1日です。





「聞くことが」

会長 中川 潤二

新しい年は、テレビをみるのがつらい地震のニュースで始まりました。

NHKの女性アナウンサーの「逃げてください。とにかく逃げてください。テレビを見ないで逃げてください。」という必死の声がずっと耳に残りました。津波も来ていました。

ちゃんと逃げられたかどうか。間に合っていれば幸いです。

その後の日常生活を奪われた人たちの声は、どこまで届いているのでしょうか。本当に困っている声は、私たちに聞こえるという姿勢がない限り聞こえないことが多いように思います。

私には聞くことができていなくて、いまだに後悔していることがあります。

現職だったころ、その前の勤務地でも一緒に仕事をした人がいました。朝会や暮会で私の話すことにしっかりうなずいて聞いてくれる人でした。その人はそろそろ帰る八時ころ、校長室に「いいですか？聞いてください。」と言って入ってこられました。しんどい状況で働いてもらっていました。薬も飲んでおられました。

自分のこと、クラスのことを話されるのを小一時間で「また、頑張ります。」と帰られます。

そんなことが何度かありました。だいぶ元気になられたころ、転勤されました。

その後、またしんどい状況があったようで、「校長先生、〇〇先生がしんどそうでお話をしたいと言われてますよ。」と聞くことがありました。

どうしようと思っていた矢先、不幸なことが起きました。その知らせの夜、家に帰ってから妻に「どんなことがあってもほっといて。」と言って、一升瓶を抱えて自室にこもり、一晩中わめいていました。

今でも思い出すとつらい出来事でした。

何故ちゃんと聞けなかったのだろう。彼女は待っていてくれたかもしれないのに。

今、私が生きていくとき一番大事なことは「聞くこと」だと思っています。しんどい人に寄り添って聞くことが大事です。能登の人たちや身の回りの人たちのしんどい思いをしっかり受け止めていきたいと思っています。

「令和6年 能登半島地震」にかかる義援金のお願い

本年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」によりお亡くなりになった方々へ、心からのお悔やみを申し上げます。また、被害を受けられた皆さまには、謹んでお見舞いを申し上げます。育成会関係だけでも、石川県（能登半島）を中心に被害に遭われた方が多数いらっしゃいます。本会では、この度の地震により非常に大きな被害が発生したことに鑑み、本年1月10日（水）から4月末を目途として、義援金を募集することといたしました。

呉市手をつなぐ育成会にお持ちいただくか、広島県手をつなぐ育成会に直接お振込いただけますようお願いいたします。

※振込先 郵便局 01300 9 27521 一般社団法人 広島県手をつなぐ育成会
(振込手数料はご負担いただきますので、ご了承ください)

令和6年(2024年)1月10日 一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 会長 佐々木 桃子

「卒業」

令和
手をつなぎ
生きる vol.24

十河 千佳

息子は広島県立呉南特別支援学校に通う小学6年生。自閉スペクトラム症と診断されたのは、5歳の時です。



自分よりも大きなランドセルを背負って入学式を迎えたのが6年前。あの頃は手を離せばどこへ行

くか分からないから常に手を繋ぎ目が離せなかった息子でした。発語もなく、感覚過敏で髪を切るのも、歯を磨くのも、耳をそうじするのも大変でした。

でも小学校に入り、少しずつですが成長もみられるようになりました。偏食もありましたが、みんなで食べる給食が楽しかったのか、だんだん何でも食べられるようになりました。

発語がないので絵カードを手作りしました。「朝ごはんを食べる」「手をあらう」など、なんでも絵カードでやりとりをしました。その際は必ず声を出して話しかけていました。

2年生になる直前に「えほん、よんで」と突然の発語。病院の先生には「発語はない、あっても聞き取れないだろう。」と言われましたが、「私はそんなわけない！と」思っていました。確かに、聞き取りにくい発音ですが(笑)。これまで不安でしたが、発語があった事でパーっと目の前が明るくなりました。長年夢に見ていた「おはよう」を聞いた初めての朝はわんわん泣き、涙が止まりませんでした。成長はゆっくりマイペースだけど、着実に成長を感じました。

感覚過敏で髪を切るのは年に一度のイベントのようでした。今では自分から「髪を切る！」と言うようになり、泣かず騒がず切る事ができています。そうなったのもまわりの協力があったからです。

それまでは、「迷惑かも」「申し訳ない」という思いがあって、自分がなんとかしなければ！とっていました。

でも、美容師さんに、「迷惑かけるかもしれないけど助けて下さい！」と思い切って相談をしました。美容師さんは息子がやりやすいように工夫してくれました。本当に感謝です。現在は、歯科の治療室に1人入れるようになりました。初めてのお泊まり学習や修学旅行も無事参加できました。

今回は卒業がテーマです。私にも卒業した事があります。それは、「くよくよ考えすぎる」事です。息子は4月から中学部。

「制服を着れるだろうか、毎日遅刻せずに行けるだろうか、新しい仲間とは仲良くなれるだろうか。」そんな考えがよぎります。でも！くよくよ考えるのは、「卒業」です。じゃあ、どう、考えましょうか？「あー！どんな未来が待っているんだろう！あー！どんな成長が見れるんだろう！」そう感じながら、息子と私の成長を楽しみに考えていきたいと思います。周りを見渡せば、助けてくれる人たちがたくさんいてくれる。そうやって成長させてもらっています。とても感謝しています。今では小さすぎるランドセルを背負った息子の姿に、

色々な思いを馳せながら、一緒に成長していきたいなと思います。





生後間もなく「結節性硬化症」と宣告された次男坊。男の子3人の子育ての日々のなか、就学の頃になりました。就学先は「入学したら、次男の教室に遊びに行こうか」と言った長男の一言で思いを固め、紆余曲折ありましたが、希望通り長男の通う小学校に決まり、支援学級に在籍しました。交流学級のお友達とも、色々な経験を積み、日々嬉しかったり、悲しかったり…。そんな中、お母さんは支援学級のパワフルなママ友とランチに行ったり飲みに行ったりとそれぞれに、時間を過ごされました。

4年生になり脳の手術を受けられました。同級生の歌声を病室で聞きながら、退院を目前にしたある日、容体が急変してしまいます。家族として、いつまでも一緒に思い出を紡いでいきたい。

家族の祈りは届いたでしょうか。

【第4章】

順調に進んでいると思っていた矢先、次男の容態が急変しました。すぐに家族を呼ぶように看護師さんに言われました。「えっ、こういう時って会社とかに『病院からお電話です』って電話がかかるとはじゃないの?」「私がかかるの?」「何で?」…とプチパニック。

でもすぐに、「あ～私が居るから私がかかるのか」と1人で納得。夫や両親に連絡して到着を待ちました。丁度お昼時だったので、看護師さんに次男を任せ、私は用意していた弁当を持って別の部屋で食べさせてもらいました。「もしも」の時のために、食べられる時に食べておかななくてはなりません。

みんなが集まって心配する中、容体は安定しました。今すぐの危険ではないと分かって、安心してみんなは解散しました。

その日の夜、脳外科の医師から説明がありました。「脳出血が起こり、あと3週間生きられるかどうか…」と。「え?3週間?1週間とか1ヶ月とか1年じゃなくて?何で3週間?ドラマでも見たことない」と思った私。何でこんなことになるのか…。

もしもの時、延命処置をどうするかの確認もありました。本人の希望を聞くことができればそれを優先できるのですが、それはできません。子どもの生き死にを決めないといけないなんて、親としてこんなに辛いことはあ

りません。考えて、考えて、しっかり考えて、私と夫は次男が次男らしくいられることを望んで、延命治療をしないことを決めて医師に伝えました。

それからは学校や友人に連絡をしました。連日たくさんの方がお見舞いに来てくれて、次男との写真を撮らせてもらいました。次男が生きていた、関わっていた、愛されていた証を残したかったからです。

それから次男の容態がだんだんと落ち着いて、食事も摂れるようになりました。

私は「このまま病院で生涯を終えるのなら、1回だけで良いので家に帰らせてください」と病院にお願いをしました。

医師・看護師さんと話し合っ、1回だけ外出できることが決まりました。

私はすぐに母に電話して、「次男に母さんのカレーを食べさせたいけん、カレー作ってもらえる?」と尋ねました。



母は即答で「もちろん、なんぼでも作ってあげるわいね」と返してくれました。母のカレーは次男の好物です。

夫が休みの日に合わせて外出許可をとり、小学校に行っ、支援学級・交流学級の子たちと短時間ながら過ごしました。先生方の理解が本当にありがたかったし、みんな喜んでくれ

たのが本当に嬉しかったです。

それから夫の両親に会いに行き、私の実家でカレーを食べ、病院に戻りました。とても貴重な時間でした。



そんな頃、三男の幼稚園の連絡帳に「最近話を聞いてくれませんか」と書かれていました。「これは私がないからだ」とすぐに分かりました。どうしたら良いのだろうと考えていると、奇跡が起きました。次男が退院できることになったのです。みんなの思いが神様に通じたのか、外出したことが良かったのか、完全に回復した訳ではありませんが、家に帰れます。三男も落ち着くはずです。

夏休みの間、家族で過ごすことができました。でも今までと違うのは、何をすることもどこへ行くのも、「これが最後かも」と思うことでした。

呉の花火大会を見に行った時は、この花火が次男と一緒に見る最後の花火かもしれないと思いながら、携帯電話で花火の写真を撮ったり、家族で出かけた時は、みんながそろそろ最後のお出かけかもしれないと思いながら、記念になるものを残したりしました。

とにかく後悔をしたくないから、そのように過ごしていました。

2学期が始まって学校に行ける状態では

なくて、家でのおんびり過ごす日々が続いていました。そんなある日、明らかに次男の呼吸がおかしくなりました。すぐに病院へ連絡して、入院セットを準備して病院へ向かいました。

酸素濃度が低く、即入院です。あまり良い状態ではありませんでした。点滴で栄養を摂ることしかできず、あとは次男の体力次第だと医師から告げられます。これからどのくらい生きられるのか…。三男がまた不安定になってしまう…。どうしたら良いのか悩みます。

看護師さんに相談すると医師に話していただき、三男も入院するという形で一緒にいられることになりました。

しかし幼稚園はどうしよう…。考えていると、父と義妹が「夫ができない日の送迎をしてくれる」と言ってくれました。

気は引けましたがお願いして、お弁当は母に作ってもらうことになりました。家族みんなが助けてくれました。

ほとんど意識のない次男に院内学級の先生が音楽の授業をしてくれたり、保育の先生が三男と遊んでくれたりと、病院の皆さんもとても良くしてくれて感謝する日々でした。

入院してから1ヶ月半が経った頃、夜中に「その時」が来ました。

酸素濃度が下がって、血圧も下がって、呼吸も弱くなっていきます。 つづく

人生でいろんな人との別れを経験してきましたが、子どもとの別れは今の私には考えられそうもありません。「もしもの時」のためにと覚悟をされたシナモンロールさん。そして、最後までその子らしく生きる事を望まれ、延命処置をしないことを決められました。それから家族で次男のために過ごすことに決められました。おばあちゃんに好物のカレーライスをつくってもらい、呉の海上花火も一緒に観に行かれました。これが最後かもしれないと思いながらの日々は、顔は笑っても、心の中はずっと土砂降りだったことと思います。幼かった三男坊も、そんなお母さんの思いを知ってか落ち着かなかったのでしょうか。

再入院後、病院の皆さんにとっても良くして頂きながら感謝の日々を送ります。しかし、穏やかな日々も長くは続かず、容体が明らかに不安定になってきました。…「もしもの時」がすぐそこまで来てしまったようです。もうすこし、もう少し…もう少しだけと願いは届くのでしょうか… 【徳永】

ぼくの学級！
わたしの学級！

豊浜中学校 あび学級を紹介します

昨年度 豊浜中学校には特別支援学級が2クラスありましたが、あびB学級の生徒が卒業したので、今はあびA学級に2年生男子1名が在籍して頑張っています。交流学級の生徒と一緒に学校生活を楽しんでいます。その一部をご紹介します。



職業家庭で「カム機構」の学習のため、ペーパークラフトに挑戦しました。合同作品展に展示しました。

夏には「職場体験」を行いました。説明をよく聞くことを意識しました。



文化祭では、弓道を披露しました。



楽しかった 育成会クリスマス会！～続編～



清水ヶ丘学園インターアクトクラブの皆さんありがとうございました。

この度はクリスマス会に参加させていただきありがとうございました。カローリングをしたり歌ったり、皆さんの楽しんでいる姿やたくさんの笑顔が見られ、嬉しかったです。ありがとうございました。岡田

年齢関係なく、みんなとゲームしたり、話したりできたことがとても楽しかったです。長安

ゲームなどを通し沢山の人と関わることができ、楽しかったです。長谷

昨年に引き続き今年もクリスマス会に参加させていただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。参加してくださった方々が笑顔になることにとってもやりがいを感じました。今後もこのような活動があれば参加したいと思います。この度は参加させて頂きありがとうございました。平岡



多くの人が一堂に会し共に過ごすことで、絆が深まり参加者全員が楽しむことができ、笑顔あふれる一日になったと思います。はじめは緊張し話しかける事をためらっていましたが、時間が経つにつれ、皆の緊張もほぐれ会話も増え、楽しくゲームをすることができました。貴重な経験をありがとうございました。箱崎

短い時間でしたが、会場にいた皆さんと楽しい時間を過ごすことができとてもいい経験になりました。十河

クリスマス会で、色々な人たちとゲームや歌をうたい楽しかったです。最初はゲームが上手いくか心配でしたが、ゲームをしていくうちに参加している人達が楽しいなど声をかけてくれたので、残りのゲームは楽しくできました。小山



初めてのボランティア活動でしたが、楽しく交流できて良い体験になりました。ありがとうございました。濱崎



ほんにんかつどうほうこく 本人活動報告

1月21（日）に本人部会に参加しました。

みんなで正月のはなしをしました。

ぼくは、朝4時に起きて、野呂山の初日の出を

見に行きました。

初もうでをした人がたくさんいました。

今年もいい年にしたいです。白井 一哉



～第47回呉市立小・中学校特別支援学級合同作品展～



1/19(金)～1/23(火)呉市役所1階多目的室にて開催されました。

毎年たくさんの作品が飾られています。織細な作品からダイナミックな作品まで様々です。その中から一部を紹介させていただきます。



☆ありがとうございました☆

【順不同・敬称略】(1月20日現在)

ご寄付いただいた皆さま

学校法人広島みどり学園

焼山みどり幼稚園



元気の出る情報・交流誌「手をつなぐ」

「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者(本人・家族)に関する教育・福祉・労働等々の諸施策などの記事を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している機関紙です。

※購読希望・お問合せは呉市手をつなぐ育成会

☎24-2260 (年間購読料 3,900円)

広島県手をつなぐ育成会 互助制度のご案内

心身に障害のある人が病気やケガで入院をし、付添看護が必要となった時や、突発的に他人に損害を与えた時の大きな出費に備えて、いざという時のために皆で助け合いましょう。これが「広島県手をつなぐ育成会互助制度」です。

2つのプラン④スタンダード型 12,000円
⑤補償充実型 18,000円がごございます。詳細はパンフレットまたは、育成会のホームページをご覧ください。**※来年度の継続のための会費依頼は2月中に発送いたします。**

編集後記

年明け早々、飛び込んできたニュースはあまりにも大きく、その後次々と悲しいことが続きました。
被災地の皆さまにお見舞い申し上げると共に、私たちが今一度考えていく必要があります。「いざという時、誰に連絡するか」身近な方と確認し合っておきましょう。
また、温暖化の影響で寒暖差に身体が慣れず、体調を崩しがちです。しっかりと食べて体力をつけ、訪れる春を待ちましょう。
今年の恵方は東北東！
「おには外！福は内！」